

令和3年度 第2回倉吉市総合教育会議

日 時 令和3年12月22日（水）午後3時

会 場 倉吉市役所 大会議室（本庁舎3階）

1 開 会

2 市長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 協議事項

（1）いじめ、不登校問題／G I G Aスクール構想について

（2）今後の少人数学級のあり方について

（3）小学校適正配置推進計画の進捗について

5 その他

6 閉会

<総合教育会議構成員>

倉吉市長 石田 耕太郎

倉吉市教育委員会

教 育 長 小 椋 博幸

教育委員 福井 真喜代

教育委員 田民 義和

教育委員 高橋 義博

教育委員 西田 江美

倉吉市立小中学校 ICTを活用した授業づくり

【倉吉市のICT教育の現状】

倉吉市では、令和2年度に各校2/3のタブレット端末を配置。残りの1/3は、本年度8月末までに配置。

本年度、4月よりeラーニング教材「すらら」を導入し、小学校3年生以上の活用が始まり、同時進行で教職員研修を複数回実施し、令和3年度は「まずは使ってみる」を合い言葉にICT教育に取り組んでいる。

①わかりやすい授業・主体的・対話的な授業

ICTを活用した授業は、映像やアニメーション、音声、Webサイトなど、ICTを活用することで、授業は視覚的にわかりやすくなった。例えば、発表に消極的だった児童生徒の意見もしっかりと拾えるようになり、それを元に対話が生まれている。

②学習の効率化

黒板の内容を生徒側の端末にワンタッチで共有でき、書き写しの時間を短縮。その時間を思考力・表現力・創造力を深める活動に充てている。eラーニング教材「すらら」を学習最後の評価問題に活用すれば、自動で採点し間違えれば説明を聞くことができる。先生の丸つけを待って長い行列に並ぶ必要がなくなり、復習までできるため、学習の効率化につながっている。

③校務の効率化

Googleフォームの活用により、これまで学校が行ってきた各種アンケートの集計が自動化でき、大きく負担軽減された。また、eラーニング教材「すらら」で個別最適化な学びが実現出来たため、練習問題・評価問題の採点等の負担が軽減された。

④特別支援教育での活用

特別支援教育においては、一人一人の学習状況に合わせた視覚支援・個別支援が必須である。本年度、一人1台のICT端末の導入により、映像による具体物の提示や個々の進捗に合わせた学習が可能となり、先生の説明とタブレットによる個別学習を組み合わせることで、落ち着いて学習に取り組む姿が多く見られるようになった。

⑤不登校支援

一人1台のICT端末を活用して、多くの学校が不登校あるいは不登校傾向の児童生徒の学習支援を行っている。

- ・保健室や相談室あるいは家庭で教室の授業をオンラインで受ける
- ・保健室や相談室あるいは家庭でeラーニング教材「すらら」で学習する
(長期欠席していても、自分のわからないところから学習できるメリット)
- ・会うことはできなくても、メールで担任とやりとりできる子もあり

【教職員研修】

○令和2年度3月から令和3年度8月にかけて、複数回の教職員研修を実施。教職員のICT活用能力のスキルアップを行った。【別紙2】

【ICT支援員による支援（月1回3時間 各学校を巡回）】

授業などアプリケーションソフト操作研修	・Google Workspace 全般に関する支援・研修会の実施 ・eラーニング教材「すらら」に関する支援・研修会の実施 ・プログラミング授業支援
環境整備支援	・タブレット端末の初期設定・パスワード変更 ・端末の動作確認、機器トラブルへの助言 ・ネットワーク環境のトラブルへの助言
校務支援	・学校アンケート等、Googleフォームで作成・データ移行作業 ・学校ホームページのひな形をGoogleサイトで作成

【その他の取組】

○「ICTを活用したとっとり授業改革推進事業」

西中校区（西中・小鴨小・明倫小・上小鴨小）をICT活用教育推進地域に指定。県教委との連携のもと、ICTを活用した新しい学びを実践し、その情報を公開。

○県教委のICTスーパーバイザーや大学教授等の指導を継続的に受け、実践する

- ・年2回、取り組みを「ギガチャン」で実践発表
- ・授業研究会の公開（オンライン）
- ・月1回の校区チーム会議の実施し共通実践を図る

【課題】

- ・SNSトラブル・ネット中毒等の問題
→情報モラル教育の充実（倉吉市情報モラル教育年間計画を示し、計画的な実施を指示）
- ・学校のICT活用度の違いへの対応
→校長会で指示・実践内容の共有、倉吉市が目指す学年別情報活用能力の提示
- ・一人1台端末の持ち帰りをどう実現するか
→破損時の保険適応がまだである。家庭のWi-Fi環境の差をどうするか。

○GoogleWorkSpace基本研修（県教委が中心となり、動画研修・現地研修を開催）

- ・クラスルーム（学級の児童生徒を登録し、課題の配信や回収を行う）
- ・ミート（オンライン会議システムで他校との交流や社会科見学等が可能）
- ・フォーム（アンケート機能で学習の感想や、学校アンケート等を集計。即時可視化）
- ・ジャムボード（フセン機能により、意見を整理・グルーピング）
- ・スライド（プレゼンテーションソフト。グループで共有してプレゼン作成が可能）
- ・ドキュメント（ワードと連携。文章作成ソフト）
- ・スプレッドシート（エクセルと連携。表計算ソフト）

○すらら（4月に4日間導入研修、6月に4日間管理画面研修を実施。全教職員が受講済み）

- ・AIによる対話型デジタル教材
- ・小学校3年生以上全員にアカウントを発行
- ・一人一人の理解度に合わせた問題が出題され、解説もある
- ・家庭でも利用可能。7月にアカウントと利用方法を保護者に配布済み
- ・2学期より、すららEテストを全学校で実施。（テストの間違えた内容で課題が配信され、苦手克服→評価テストで理解できたか確認）

○ロイロノート（4月に希望者向け研修、6月に追加研修を実施。全教職員が受講済み）

- ・思考を可視化し、主体的・対話的な学びを実現する授業支援ソフト
- ・写真やテキストを貼り付け、教師と児童生徒同士がやりとりできる
- ・直感的に操作でき、小学校低学年から操作が可能。

○情報教育主任研修

- ・8月に各学校のICT教育の進捗状況を持ち寄り、共有を行った。

各学校では、情報教育主任や若い世代の教師が中心となり、自主的に授業を見合ったり、放課後勉強会を行ったりして、楽しみながらスキルを高めている。